工事費内訳書対象を拡大

通常指名2割で試行等

国交省

国土交通省は、工事費内訳書提出の対象工事を6月1日から拡大する。公募型指名競争入札のすべてで提出を求めるとともに、各整備局ごとに工事希望型指名競争入札の5割、通常指名競争入札の2割を対象とする方針だ。また、提出様式について、これまで指定様式と自由様式の2本立てで実施していたものを、「業者の負担軽減」「適正な見積りの促進」の観点から、指定様式を廃止し自由様式のみとする。

4月に発表した「入札契約適正化の徹底のための当面の方策」に盛り込んだ施策の一つ。入札参加者の適正な見積もりを促すとともに、談合などの不正行為を排除するために、入札時に工事費内訳書を提出する案件を拡大する。

14年度は公募型の5割、工事希望型の3割、通常指名の1割で試行していたが、これを公募型のすべて、工事希望型の5割、通常指名の2割を対象としていく。

国交省では、公募型に限らず、将来的にはすべての案件についての工事費内訳書提出を視野に入れており、16年度以降に、今回の試行結果などを基に全面導入の時期を探っていく。

内訳書の様式については、各企業が積算に使っている書式をそのまま利用できるようにすることで業者の負担を軽減するとともに、不正行為を発見しやすい状況を作るため、自由様式に統一した。

5月23日付で各地方整備局に通知しており、6月1日以降に公示・指名する工事から適用する。

X1評点見直しを正式通知

10月1日から施行

国土交通省は30日付けで、X1評点の「評点テーブル」を線形式化する経営事項審査の改正を、地方整備局と各都道府県へ通知する。10月1日から施行。通常7月に経審を受審する3月期決算の企業などは、改正後に再審査が必要となるが、今のところ10月1日から120日間の審査期間を設ける予定でいる。

経営事項審査のうち、企業の完工高の規模を評価するX1評点は、過去2期または3期の平均完工高が評点テーブル（45分割）のどの部分に該当するかで算出。

これまで完工高が同一テーブル内に位置する場合、完工高の大小にかからず、同一の評点となっていたが、今回の線形式化では、この45分割のテーブルの頂点を直線で結び、1000円単位で評点を算出できるように改正する。これにより、完工高がX1評点により適正に反映する仕組みとなる。

また、見直しでは階段の頂点同士を結ぶため、すべての企業の評点が現行と同点か、アップする。

CPDS指定技術講習会

9月5日に福岡で

全国土木施工管理技士会連合会

全国土木施工管理技士会連合会（豊田高司会長）は、CPDS指定技術講習会を、7月23日のさいたま会場を皮切りに、大阪、名古屋など全国9会場で開く。テーマは「建設技術動向」と「建設VEによるコストダウン」。CPDSに登録していない場合の受講も可能。

「建設技術動向」では、国土交通省の担当者が講師となり、建設工事事故分析結果に基づく15年度事故防止重点対策について、事例や対応策などを含めて解説。「建設VEによるコストダウン」では、大野春雄攻玉社工科短大教授が、現場でのVE事例などを通じ、技術提案力の向上策について説明する。

同講習会は、連合会が取り組むCPDS（継続的専門能力啓発システム）の指定技術講習会。CPDS技術者が参加すれば、学習に応じたポイントとして、4ユニットが履歴に登録される。ただ、CPDS会員以外でも、講習会に参加することは可能だ。

受講料は技士会会員と全日本建設技術協会会員が5800円。そのほかは7500円。九州地区では、9月5日に福岡県糟屋郡篠栗町の福岡県建設技術情報センターで午後1時から開く。定員は150人。

申し込み、問い合わせは、同連合会CPDS情報室（☎03・3262・7438）まで。

QBS方式ガイドブック案

今秋から普及活動本格化

JIA

日本建築家協会（JIA、大宇根弘司会長）は、価格によらない設計者選定方式である資質評価（QBS）方式を全国の地方自治体に普及させる目的で、「QBS方式ガイドブック」案をまとめた。プロジェクト規模に応じて、QBSを①全国展開型②ブロック展開型③地域展開型－の三つに分類し、それぞれ対象となる建築家、評価基準、審査委員会の在り方などを詳しく例示している。今秋をめどに全国自治体を対象とした普及促進活動を本格展開する方針だ。

QBS推進ワーキンググループ（WG）の倉橋哲也氏（日本ヒューマンファクトリー代表）は、「設計者選定をなくす一つの方法として、QBS方式の普及を図っている。全国の自治体でこの方式を採用してもらうため、ていねいで分かりやすいマニュアルを作った。ぜひ活用してほしい」と呼びかけた。

QBS方式は、建築家の代表作品やインタビューによって個人の資質を評価する仕組みで、設計者に比較的負担が少なくて済む点がメリットとして挙げられている。1972年にアメリカで考案され、同国ではすべての公共建築でこの方式が採用されている。

また、国際建築家連合（UIA）の推奨も受けている。

こうした状況を踏まえ、JIAでは「入札によらず、透明性があり合理的で、応募者の負担が少ない設計者選定方式」としての地方自治体がQBS方式を導入できるよう、プロジェクト規模に応じて、3方式に分類、それぞれ実施要領を標準事例として示した。

全国展開型は、比較的大規模で重要なプロジェクトが対象。広く建築家を募集するため、1級建築士事務所登録者であれば、全国から応募可能とする。資質表明書の評価は、他の方式より項目を増やし、同規模以上の設計実績なども評価対象に加える。審査は、委員長・委員として建築家が2、3人参加し、計5～8人程度で構成する審査委員会が担当する。

また、ブロック展開型は、大半のプロジェクトに適用できる汎用型の方式を想定。応募資格を建設地の都道府県、または周辺の都道府県に限定するケースなどが主な適用対象となる。具体的には、対象都道府県の指名参加や代表作品の所在地が要件となりうる。

地域展開型は、小規模プロジェクトが対象。応募資格は、自治体の指名参加や現地での代表作品の有無が要件。資質表明書では、受賞歴や同規模以上の設計実績は評価対象とせず、実務経験年数や代表作品を中心に評価する。審査委員会も、委員長だけを建築家とすることを要件とし、3人から5人の簡易な構成が可能としている。

今後、このガイドライン案に関する意見を各支部などから集めて、さらに詳細を検討し、今秋にも展開する全国自治体を対象にしたQBS普及活動のツールとして役立てていく方針だ。

消防用設備等点検報告督励

来月2日から実施

鹿児島市消防局

鹿児島市消防局は、15年度新規事業として緊急地域雇用創出特別基金事業を活用した消防用設備等点検報告督励支援要員による消防用設備等の点検及び報告の督励事業を計画している。

事業の目的は、雇用の創出を図るとともに、この消防用設備等点検報告督励支援要員が訪問した防火対象物の関係者に対し、火災の際に消防用設備等が確実にその機能を発揮し被害を最小限に図れるよう消防用設備等の点検を行い、その結果を用設備等点検報告制度の重要性について説明、消防用設備等の点検及び報告するよう督励を行うもの。期間は6月2日から11月28日までとなっている。

九州地方知事会議

来月5日、沖縄で

九州地方知事会議は6月5日午前9時から、沖縄県の石垣全日空ホテル&リゾートで第121回の会合を開く。

県水道協会

来月2日

県水道協会は6月2日午後1時30分から、鹿児島市の市民文化センターで15年度総会及び第43回水道普及大会を開く。

本社来訪

江藤正幸氏（県建造物解体業連合会会長）豊倉厳氏（同副会長）石神氏男氏（同事務局長）＝通

きょうの天気

地方	天気	風	降水確率
種子屋久	雨昼過ぎから曇	北西強くのち北やや強く	70％ / 30％
大隅	雨昼前から曇	北西強くのち北やや強く	50％ / 20％
鹿児島	晴朝晩曇所一時雨	西強くのち北やや強く	10％ / 10％
奄美	晴昼過ぎから曇所一時雨	西強くのち北西、南部では西やや強くのち北西	10％ / 10％

降水確率：上段6時～12時、下段12時～18時

週間天気予報

日	曜	鹿児島・種子・屋久地方 天気	降水確率	気温	奄美地方 天気	降水確率	気温
1	日	☀	10％	27°21°	後☀	30％	26°21°
2	月	☀☁ 時々	20％	27°18°	☀☁ 時々	20％	26°21°
3	火	☀☁ 時々	20％	28°20°	☁☀ 時々	30％	26°21°
4	水	☁☀ 時々	30％	27°20°	☁	40％	26°22°
5	木	☁	40％	27°21°	☂ 一時	50％	27°22°

《概況》向こう一週間は、きょうは台風4号の影響で荒れた天気となる所がある。中頃は高気圧に覆われて晴れる日がある。

SPACE HOUSE が鹿児島に
スペースハウス
新登場

・簡単、スピーディーな作業
・安全性、快適性を重視
・コンセント、照明・換気扇付
・運搬時のコストダウン化
ハウス事業部
鹿児島支店
鹿児島市永吉町（アリーナ近く）
☎ (099) 250-5060番
FAX (099) 285-5999番
串木野支店
串木野市さつま山（R3号線沿）
☎ (0996) 32-2839番
FAX (0996) 32-4156番
スペースハウス「エクストラ」
販売・リース 県下総代理店
中央仮設株式会社
☎ (099) 229-5900